

3 本時の学習

- ① 題材名 ALTの先生を招待し、いっしょに書写を学ぼう。
- ② 本時の目標 ALTの先生に書写を教えることを通して、書写の目的や道具の使い方、硬筆毛筆の特徴、行書楷書の特徴、漢字の歴史などを振り返り、書写の基本を振り返るとともに、日本の伝統である書に親しみ、誇りをもつ。

③ 指導過程

段階	教師の働きかけ	予想される生徒の活動	形態	教師の支援及び評価
課題をもつ	① ALTの先生に日本の文化である「書」を紹介しよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで学んできたことを全部話したいな。 ・わたしの英語がうまく伝わるといいな。 ・「書」についてわかりやすく説明しよう。 	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで作ってきた文字・書写の調査書をもとに、ALTの先生と話を始める。
	② 自分たちが学んだ漢字をALTの先生に紹介し、書写を始めよう。 A組 1茶 2和 3涼 4光 B組 1空 2歩 3恋 4花 C組 1志 2人 3桜 4愛		グループ	<ul style="list-style-type: none"> ○進んで話をしようとする態度を認めながら、支援をしていく。 ○グループを順に回りながら、調べたことをうまく活用できるように声をかける。
	書写の道具について、話をしよう。	文字の歴史や意味について話をしよう。		<ul style="list-style-type: none"> ・ALTの先生には、わからないことはなんでも質問していただく。 ・質問に答えられなかったときには、辞書や本を活用し、その場で調べられるようにしておく。 ・なるべく多くの生徒が筆を持ち、言葉を交わせるようにする。 ・書写の基本を確実に押さえる。楷書と行書の違い、毛筆で学んだ基礎を生かして、硬筆でも書いてみる。筆ペンなども利用してみる。
	ALT 筆の毛はなんの動物の毛ですか。 ・筆の毛は、馬や羊やいたちの毛で作られています。 ALT 書写はなんのために勉強するのですか。 ・文字をきれいに速く書くためです。毛筆で細かい部分を学び、硬筆に生かせるようにします。	ALT 左側の点三つは何を表しているのですか。 ・「さんずい」といって、水を表しています。右側の「京」は美しく清らかなことを表しています。 ALT 「志」はどんな意味をもった漢字ですか。 ・「士」は自分の行く道を表します。「心」は心臓や気持ちを表します。		
追求する	いっしょに毛筆・硬筆で書いてみましょう。			
	ALT 行書はどんなふうにかきたいですか。 ・行書はやわらかく、線がつながっているつもりで書きます。楷書より速く書けるのが特徴です。 ALT 書写では、にじむのはいけないのですか。 ・書写では、にじみやかすれは出ません。芸術の書道では、にじみやかすれを使います。 ALT 筆はどう持ちますか。 ・人差し指をかけて持つ「単こう法」と、人差し指と中指をかけて持つ「双こう法」があります。持ちやすいほうで持ってください。 ALT 楷書は、どうやって書いたらいいですか。 ・楷書は、一画一画をきちんと書きます。			
まとめる	付箋でよいところにコメントをはり、まとめをしよう。		グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いに書いたもののよい点を認め合って終了する。次時に、反省と感想を出し合う。

書写における多様な学習活動の展開

— ALTの先生といっしょに書写を学ぶ（三年）

新しい指導を考える会

1 実践の趣旨

中学生となると国語の学習に追われ、書写の授業時数の確保が困難となる。しかし、アンケートによると、文字をきれいに書きたいと思っている生徒、行書を書いてみたい、書けるようになりたいという生徒が九割以上いた。その意欲を今回の授業に生かしていきたいと考えた。

また、生徒たちは総合的な学習での地域学習を通して、町の自然の豊かさや温かな人々に誇りを持ち始めている。しかし、常に少人数の中で生活してきた生徒たちであるから、人と上手に関われない面もある。

そこで、人と関わることも含めた書写の学習を行いたいと考え、「ALTの先生に書写を学んでいただく」という授業計画を立てた。書写の授業に総合的な学習の時間の要素（多様な活動や人との触れ合い）を取り込み、生徒が興味・関心を高めるような授業を行えば、文字の点画や字形、楷書や行書について学ぶことができるのではないかと考え、今日これを実践した。

2 指導計画（全6時間）

時	題材名	内容	留意点（評価）等
1		<ul style="list-style-type: none"> ・グループを作り、ALTの先生に教えてあげたい漢字を考えてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・8人で1グループを作り、ある程度イメージのよい漢字1文字を選び出す。
2・3・4		<ul style="list-style-type: none"> ・ALTの先生の質問を予想して、文字について分担して調べてみよう。（英語科の先生にお願いして、英語の時間に英単語を教えていただく。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで協力して、自分の担当箇所について進んで調べる。（関心・意欲・態度）
5（本時）		<ul style="list-style-type: none"> ・ALTの先生を招待し、いっしょに書写を学ぼう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTの先生方に調べたことを話したり、質問を受けたりしながら、書写についての知識を深めていく。
6		<ul style="list-style-type: none"> ・まとめをしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの中で深まった知識や、今回調べてわかったことなどを中心に、自分たちが書くことでまとめる。



- 4 生徒の感想(抜粋)
- ・英語でしか授業をしたことがないALTの先生と、日本語で書写の授業というのがおもしろかった。書写と英語の両方にくわしくなった。
 - ・国際化が進んでいくこれから、自分の国の文化も、他の国の文化も体験しながら国の壁をなくしていきたいなと思う。教えるという立場になっていたからこそ、事前学習もしっかりできた。
 - ・「涼」という字一つとっても、いろいろな意味一つ一つを発見するのが楽しかった。
 - ・いろいろ調べていく上で、正しい姿勢や書き方など、初心に戻って勉強することができました。でも、英語はもう少し勉強したほうがよかったです。
 - ・テスト先生が you are good teacher と言ってくれたので、うれしかったです。
 - ・インターネットを使って調べたことが役に立ってよかった。
 - ・たとえば、「筆をはらう」はなんて言えはいいのかわからなくて、身振り手振りでの説明になってしまいました。でも、とても上手に書いてくれて、うれしかったです。
 - ・ALTの先生だけでなく、僕らの勉強になったと思う。

5 成果と課題

生徒たちの前向きな姿をとらえることができた授業であった。また、ねらいとした「活動の中から学び、学習内容が身につく



▲生徒が作った説明のプリント

こと」も達成できたように思う。

中学校には常駐のALTがいないため、生徒たちは毎年ALTの先生が来てくださる時期をとっても楽しみにしている。今回もALTの先生が来てくださると聞いて、書写についてや選んだ文字についての下調べに熱が入った。また、自分たちが教える側になるということで、何を聞かれてもしっかり答えなければという自覚があったようだ。

そんな中で、書写の筆づかいの基本から、道具の説明、ほめるための言葉などを英語を交えて調べていった。調べていく中で、書写の基本を確認したり、文字の書き方を学び、なぜ、硬筆の授業を行うのかに気づいた生徒もいた。一緒に学ぶということができたのと同時に、責任をもって正しいことを教えてあげたいという気持ちも、調べ学習などにおいてよい効果をもたらしたと思われる。

後日、この授業をきっかけに書道教室に通うことにしたというALTの先生がおられ、生徒だけでなくALTの先生にも興味をもっていただけで、うれしく思った。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇

書写学習の集大成の時期である中学校国語科書写の授業を、どのように指導したらよいか。本実践は、ALTとの交流を前提として、生徒自らの学習を深める画期的な指導方法である。生徒は、人に教えることの難しさ、楽しさを味わいながら自己研鑽の必要性を痛感したことであろう。そして、何よりも、書写の基礎・基本をフィードバックする中で文字を手で書くことや我が国の毛筆文化の意義を十分感じ取ったに違いない。書写の学習を総括する意味でも価値ある実践といえよう。(M)